

群 教 セ	G02 - 02
	令7.290集
	社会 - 小

身近な地域の学習において、 主体的に学び続ける児童の育成 - 出会う時間の設定と、単元を通じた活動を通して -

特別研修員 都筑 悠

I 研究の概要

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことが示されている。また、群馬県「令和7年度学校教育の指針」では、授業改善として「児童生徒の日常生活や社会と関連した単元・題材を構想する」ことと「児童生徒の意識の流れに沿った問題解決的な学習、探究的な学習を重視する」ことが挙げられている。

研究協力校の児童は、提示された課題には意欲的に取り組むものの、自ら課題を見いだすことに困難さを抱える傾向がある。また、学習内容を「自分事」として捉えることが難しい様子も見受けられる。これまでの授業実践を省察すると、導入において児童の興味・関心を高める工夫は行われていたが、その関心を学習全体に生かし切れず、主体的・探究的な活動へと十分につなげることができなかった。与えられた課題をこなす活動が中心となっていたことが一因と考えられる。身近な地域の学習において主体的な学びを実現するためには、社会的事象と自身の生活経験を関連付け、学習を「自分事化」していくプロセスが必要である。

そこで、地域の社会的事象との出会いで自らの生活と結び付ける工夫を行い、そこから生まれた学習問題を、自分事としてとらえ、主体的に追究していこうとする態度を養うようにする。また、単元を通して児童の生活と結び付けるための単元構成の工夫をしていくことで、地域学習において児童が主体的に学び続けることにつながると考え、本研究テーマを設定した（図1）。

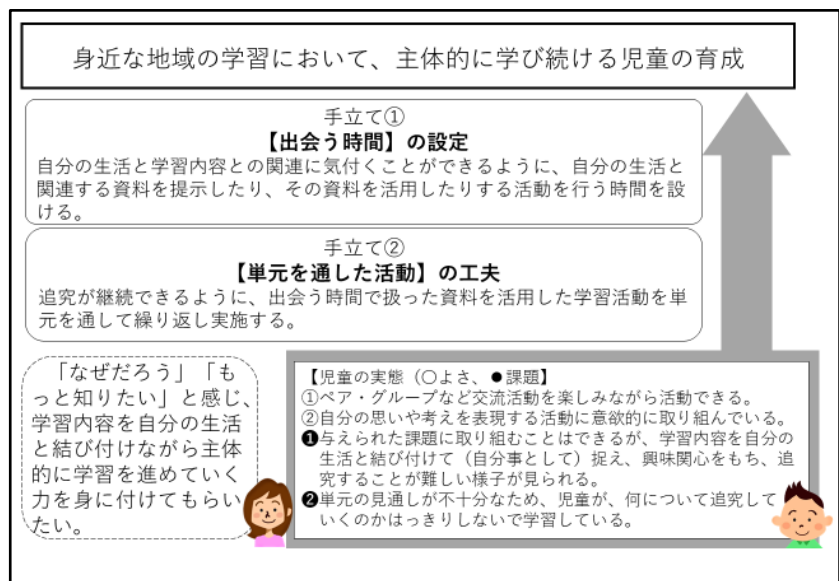


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

児童が、身近な地域の学習において、主体的に学び続けることができるよう、以下の手立てを講じる。

手立て1 【出会う時間】の設定

自分の生活と学習内容との関連に気付くことができるように、自分の生活と関連する資料を提示したり、その資料を活用したりする活動を行う時間を設ける。

つかむ過程において、地域の社会的事象と児童の生活を結び付ける時間を十分に確保するとともに、学習内容と自身の生活との関連に気付けるような資料提示や体験活動を設定する。これにより、学習内容を「自分事」として捉え、児童が自身の気付きや疑問を基に「更に確かめたい」という見通しをもち、主体的に学習に取り組めると考える。

手立て2 【単元を通じた活動】の工夫

追究が継続できるように、出会う時間で扱った資料を活用した学習活動を単元を通して繰り返し実施する。

手立て2では、教材を繰り返し照らし合わせることにより、学習内容と児童の生活との結び付きを持続させることを意図した。単元の学習過程において、「出会う時間」で得られた児童の気付きを、その後の学習内容と継続的に関連付ける構成とした。具体的には、児童が自分の家庭における買い物の写真を資料として活用することで、単元全体を通して、生活経験を基に学習内容を捉え直す活動を繰り返し行うことが可能となった。その結果、児童が主体的に追究しようとする姿勢の継続が期待できる。

II 実践例

1 単元名 「はたらく人とわたしたちの暮らし 店ではたらく人」

2 授業の実際

本時は全12時間計画の第1時に当たる。本時の導入として、児童が日頃利用する店舗に関するアンケートと、保護者の利用店舗に関する事前アンケート結果を提示した。この差異から生まれる疑問や気付きを起点とし、本時のめあてを確認した。次に、自分の家の買い物の写真から「自分の家らしさ」を見付け、伝え合う学習を行った。様々な観点で「自分の家らしさ」を記述させた。保護者の回答結果を提示したり、自分の家の買い物の写真を活用したりすることで、学習内容が児童の生活と結び付きがあることを実感することができる。

(1) 手立て1について

本時では、形態の異なる四つの店舗の写真を提示し、「自分はどの店をよく利用しているのか」を児童に問いかけた。タブレットのアンケート機能を活用することで、一人一人の生活経験が即時にグラフとして可視化され、結果を自分の選択として実感しながら捉えることができた。さらに、事前に調査していた保護者アンケートの結果と比較することで、自分の生活と家庭、社会とのつながりに気付くきっかけとした(図2)。児童からは、

「クラスみんなは、スーパーマーケットに行くことが多いね」「みんなの家の人もスーパーマーケットをよく利用している。同じだ」「ぼくは、お母さんとよく行く」「なんで、みんなスーパーマーケットに行くのだろう」といった発言が見られた。これらの発言から、児童が自分自身の生活経験を基に、友達や家庭の様子と照らし合わせながら考え、疑問をもって発言する姿が見られた。

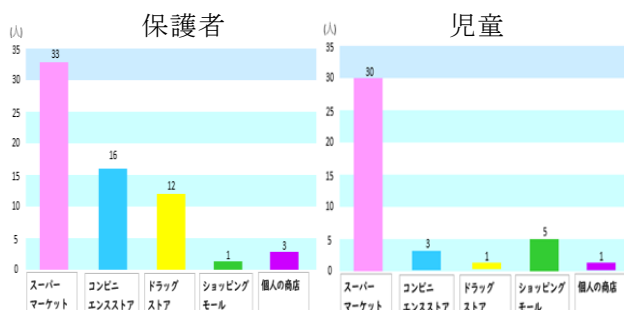


図2 アンケートを提示する

次に、各家庭で事前に用意したスーパーマーケットの買い物の写真（図3）を教材とした。児童は、自身の生活経験や写真から読み取れる情報などにに基づき、「毎回カゴ3個分を1週間に一回買い物に行きます」といった頻度や量に関する観点、「買い物は、いつも必ず〇〇に行きます。その理由は、家との距離が近いからです」といった場所や利便性に関する観点、「寒くなってきたので、鍋の具材を買っていることです」といった季節性や消費に関する観点、「買い物で必ずしらすを買うことです。私と弟がご飯にかけて食べるのが好きだからです」といった家族の好みなど多様な観点から「自分の家らしさ」について交流していた（図4）。



図3 買い物の写真の例

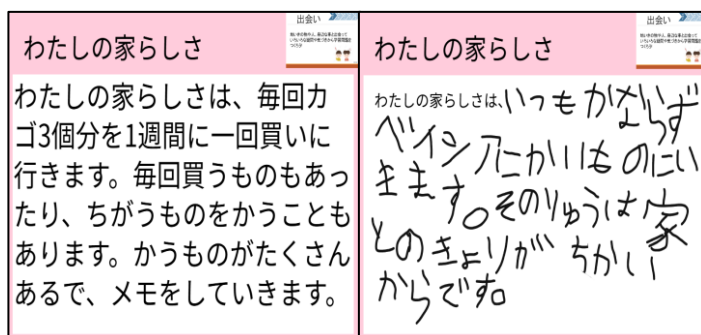


図4 児童の様子と記述

(2) 手立て2について

本単元の第2時では、児童自身の買い物の写真とコンビニエンスストアでの買い物の写真を、二つの買い物の様子を比べる活動を行った。（図5）の写真に写る商品の量や種類、組み合わせに着目しながら、スーパーマーケットでの買い物の特徴について考えさせた。児童は、「スーパーでは家で使う物をまとめて買っている」「いろいろな種類の物が入っている」など、自分の生活経験をもとに写真を読み取り、スーパーマーケットでの買い物の様子について気付いたことを出し合った。この活動を通して、身近な経験と結び付けながら、スーパーマーケットの特徴に目を向ける場面とした。



<p>児童の気付きや疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーでたくさん買うけど、コンビニでは少ししか買わない。 ・スーパーの買い物には、いろいろなものが入っているけど、コンビニはそこまで多くないのはなぜだろう。
--

図5 二つの買い物の写真と児童の記述

次に、本単元の第7時では、児童が発見した「様々な大きさにカットされたキャベツ」という商品の工夫を取り上げた（図6）。はじめに、手立て1で活用した自分の家の買い物写真を振り返り、「自分の家ではどうか」という視点から考察させた。その後、家庭学習として、児童が発見した「様々な大きさにカットされたキャベツ」の写真を保護者に提示し、「自分の家ではどれを購入するか」「その理由は何か」を質問する活動を行った。これにより、家庭での実際の購買行動や考え方について情報を収集する機会を設けた。これらの活動を通して、児童からは「スーパーマーケットは、多様な消費者の生活や考え方に合わせて商品を工夫している」といった記述が見られた。

また、商品や売場の工夫について、自分の家庭における買い物の経験を具体的に挙げながら記述する児童の様子が確認され、スーパーマーケットの工夫を家庭の生活と結び付けて捉えていることがうかがえた。



図6 商品の工夫を買い物写真から見付ける活動

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 学習内容を自分の生活と結び付けて（自分事として）捉えることができるようになったことで、身近な地域に対する興味や関心を高め、学習を進める中で生まれた気付きや疑問を解決しようとする姿が見られるようになった。
- 学習を進める中で、児童からは、授業外で身近な地域のスーパーマーケットを利用した際に、商品や売場の工夫について自主的に見てきたことを伝える発言や、「次はここを見てみたい」といった、授業中に更なる追究を意識した発言が見られた。これらの様子から、学習内容を自分の生活と結び付けて捉え、授業内外を通して主体的に追究し続けようとする姿が表れていた。
- 4月当初は、疑問が生じた際に教科書の記述をそのまま探し、答えを求めようとする姿が多く見られた。しかし学習を重ねる中で、児童の考え方に変化が見られるようになった。疑問が生まれると、「まず自分ではどう思うか」「自分の家の周りではどうだろう」と、自分の生活経験や身近な地域と結び付けて考えようとする発言が増え、主体的に学びを深めようとする姿が見られるようになった。

2 課題

- 児童が用意した写真の中には、スーパーマーケットでの買い物の機会が少なかったり、特定の商品に購入内容が偏っていたりするものが見られた。そのため、コンビニエンスストアとの違いや、スーパーマーケットにおける品揃えや売場の工夫を十分に捉えることが難しい写真もあった。結果として、学習内容で扱うスーパーマーケットの工夫と、児童自身の日常生活との関連付けが困難となる場面が生じてしまった。